

三重県教育施策大綱（令和2年度～令和5年度）に基づく令和3年度の取組の主な成果と課題

県では、総合教育会議における協議を経て策定した「三重県教育施策大綱（期間：令和2年度～令和5年度）」に基づき、教育に関する施策を推進するための取組を進めています。

新型コロナウイルス感染症により、教育現場においても様々な取組において影響がありますが、令和3年度は、学校教育では2年ぶりに「全国学力・学習状況調査」と「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」が実施されました。

『全国学力・学習状況調査』では、平均正答率が全国を上回ったのは、小中学校あわせて4教科中1教科（中学校数学）でした。自分の考えを相手に分かりやすく説明することや、「割合」「図形」の問題に依然として課題があります。また、全国と比較して平日のテレビゲーム等の使用時間が長く、家庭での学習時間が短い状況でした。この結果を受け、令和3年度下半期は、「CD層の児童生徒のつまずきの克服」「経年課題の克服」「学習習慣の確立」を重点的に取り組むこととし、課題の改善に向けた取組を市町と連携して推進しました。

『全国体力・運動能力、運動習慣等調査』では、体力合計点が全国と比較して中学校では上回りましたが、小学校ではやや下回り、特に走ることや体の柔軟性に課題が見られました。児童生徒質問紙の結果からは、全国と同様に総運動時間の減少が見られました。子どもたちの体力向上を図るため、体育担当者研修会において全国調査の分析結果や、体力合計点が高い学校での好事例を共有し、各学校の取組に反映させるよう助言しました。

現在も、新型コロナウイルス感染症の収束が見込めない状況ですが、子どもたちの学びの環境の充実や支援の方法について創意工夫を凝らし、引き続き、取組を進めていく必要があります。

また、県では、新たな県政運営の基本となる「強じんな美し国ビジョンみえ（仮称）」および「みえ元気プラン（仮称）」を策定することから、今後はこれらに基づいた施策の展開を図っていきます。

教育施策	主な成果	残された課題
1「教育の原点」である家庭教育と子育て支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ A I を活用した児童虐待対応支援システムの運用等による、子どもの安全を最優先に考えた児童虐待対応 ・ 県が派遣するアドバイザー等の活用などにより児童虐待の早期対応力強化に 27 市町が取組実施 ・ 新たに 9 市町が、全ての子どもとその家庭に適切な福祉的支援を提供する「子ども家庭総合支援拠点」を設置（計 18 市町） ・ 里親業務を包括的に実施するフォスタリング機関を新たに 1 か所（中勢）設置（計 3 か所）するとともに、フォスタリング機関に委託を行った里親家庭とのマッチング事業において 4 組のマッチングが成立 ・ 子どもからの相談を受け付ける「こどもほっとダイヤル」（相談件数：1, 026 件）に取り組んだほか、子ども自身が子どもの権利について学べるよう、「子どもの権利ワークシート」および「デジタル絵本」を作成・小学校等に配布 ・ 子育て家庭の孤立を防ぐための「みえの親スマイルワーク」を 10 市町で実施（新規 5 市町） ・ Web 上で子育てのヒントを学ぶことができるよう、「家庭教育応援 Web 講座」を新たに 37 講座公開 ・ 「みえの育児男子プロジェクト」に 114 企業・団体が参加 ・ 母子保健コーディネーターの養成（累計 227 人） ・ 産婦健診・産後ケアを 27 市町で実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童相談所の対応力の強化、専門職の増員 ・ 子ども家庭総合支援拠点の全市町への早期設置、市町の相談体制・専門性の強化等、各市町の実情に応じた的確な支援の実施 ・ フォスタリング機関のさらなる整備や、より家庭的な養育環境の提供にむけた児童養護施設等の小規模グループケア化・地域分散化 ・ 子どもの権利に係るさらなる理解促進、子どもが主体となった活動の充実 ・ 子育ての支援を必要としている家庭ほど支援が届きにくい実態をふまえた効果的な取組等の検討 ・ 男性の育児参画の推進に向けた気運醸成、男性の育児参画の質の向上 ・ 産後の子育ての負担感や孤独感を軽減するための産後ケア事業等に従事する保健師等の人材育成
2 人間形成の基礎を担う幼児教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所等の施設整備、保育士確保・離職防止のため職場環境改善取組の支援 ・ 保育士等の処遇改善のためのキャリアアップ研修の実施（修了者累計 8, 221 人） ・ 三重県幼児教育センターに幼児教育スーパーバイザーや幼児教育アドバイザーを配置し、市町の幼児教育計画や市町・園内研修会等において助言・支援 ・ 幼稚園教諭や保育士等の専門性を高めるための新任研修や園内研修への支援 ・ 27 市町が就学前教育の独自計画・方針を策定、取組を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育士確保・離職防止・資質向上と待機児童の解消 ・ 市町や施設における幼児教育の質向上に係る取組内容や、保幼小の円滑な接続に係る取組成果等の情報発信 ・ 就学前教育を担う人材の資質向上

教育施策	主な成果	残された課題
<p>3 子どもの未来の礎となる「確かな学力・豊かな心・健やかな身体」の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人児童生徒巡回相談員を各市町や小中学校に派遣し、日本語指導が必要な外国人児童生徒や保護者への支援、翻訳等の支援を実施したほか、オンライン日本語教育を実施して14名の児童生徒が受講 ・一人ひとりの定着度にあわせた学習を推進するため、みえスタディ・チェックをC B T (Computer Based Testing) で実施 ・小学校 89.3%、中学校 92.4%で習熟度別指導を実施し、モデル校でICTを活用した効果的な指導方法を研究 ・市町の指導主事や教員を対象に道徳教育推進会議を実施。また、道徳教育アドバイザーを派遣した指導助言、指導案のクラウド共有を実施 ・発達段階に応じた読書活動推進のため、子どもの読書活動に関係する方を対象に「子どもの発達段階に応じた読書活動実践フォーラム」を開催したほか、小学校入学児童の保護者を対象に「家読普及啓発のためのリーフレット」を作成・配付 ・子どもたちの読書への関心を高めるため、小学校でビブリオバトルのデモンストレーションを行うとともに、高校生に加えて中学生を対象とした大会を開催 ・子どもたちのスポーツへの興味・関心を高めるため、県内6校でオリンピック・パラリンピアン講演及び競技体験会を実施 ・生徒への専門的な指導の充実と教員の負担軽減を図るため、運動部活動指導員の配置や運動部活動サポーターの派遣を実施 ・3市町4中学校をモデル校に、休日部活動の段階的な地域移行に係る実践研究を実施 ・市町と意見交換を行う会議を立ち上げ、モデル校の取組や「部活動のあり方検討委員会」での議論を共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語指導が必要な外国人児童生徒への指導状況の把握、市町と連携した日本語指導に係る支援 ・ICTを効果的に活用した授業改善や個に応じた指導、学習内容の定着状況の確認の推進 ・一人ひとりの学習意欲の向上および学習内容の定着に向けた効果的な習熟度別指導の展開 ・道徳教育アドバイザーによる指導助言や道徳教育の取組事例等の広域的な発信、市町や学校の状況に応じた支援 ・子どもの発達段階に応じた読書活動の推進、子どもたちが読書に親しむ習慣づくり ・子どもの体力向上を目指した授業改善 ・持続可能な部活動に向けた部活動ガイドラインに基づく取組や地域移行の検討

教育施策	主な成果	残された課題
4 個性を生かし他者と協働して未来を創造する力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県立高校7校において探究力、論理的思考力を育成する「学びのSTEAM化」の実証事業を実施 ・ 小規模高校において、地域住民や職業人と関わる実社会での実践活動や地域課題の解決策についての探究活動の実施 ・ オンラインによる海外交流、英語でのディスカッションやディベートなど実践的に英語を使用するセミナー等を実施 ・ 中学生が三重県の魅力等を英語で発信する「ワン・ペーパー・コンテスト」を実施したほか、中学生が郷土について課題解決型学習の手法により学ぶ郷土教育を実施し、県内の学校関係者向けに研究発表会を開催 ・ 小中学校における1人1台学習端末を活用した学習が計画的に行えるよう、民間人材3名をアドバイザーとして委嘱し、セキュリティおよびコンテンツに関して市町および学校に助言 ・ 市町担当者との情報共有・意見交換等を定期的に行い、1人1台学習端末活用事例やオンライン授業、年度をまたぐ児童生徒のアカウントの取扱いや学習データの移行などに関する課題について協議、共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科横断的な探究活動を通じた学習の展開 ・ ミスマッチによる早期離職につながらないよう、リアルな体験とオンラインによる学習を組み合わせたキャリア教育の実施 ・ ICTを効果的に活用した授業実践の共有や、教職員のニーズをふまえた研修機会の提供 ・ 整備された学習端末の効果的な活用のため、市町のニーズや課題に対応した支援の実施
5 特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市町と連携した小中学校へのパーソナルファイルの活用(8,684人)、中学校から高校への支援情報の引継ぎ(210件) ・ 高校において発達障がい支援員3人による巡回相談(351回)を行い、生徒および保護者との面談や教員へ助言等を実施 ・ 特別支援学校に配置したキャリア教育サポーター(4人)による職場開拓(企業訪問数1,321回)、企業と連携した技能検定(清掃技能、看護・介助業務補助技能)の実施 ・ 肢体不自由のある生徒等がテレワーク等の新しい就労形態について理解を深めることができるよう、ICTを活用した就労体験を実施 ・ 子どもの特性に応じた指導・支援の方法や個別の指導計画等の作成について、小・中・高校等の教員に対して助言 	<ul style="list-style-type: none"> ・ パーソナルファイルのさらなる活用の推進、支援情報の確実な引継ぎの推進 ・ 発達障がい支援に係る教員の専門性の向上

教育施策	主な成果	残された課題
6 安全で安心な学びの場づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災ノート配付、1人1台学習端末を活用して児童生徒が防災に対する学びを深めることができるデジタルコンテンツ作成 ・ 県立学校での重大事態について、調査の進め方、認定時期、公表のあり方などを三重県いじめ対策審議会において検証 ・ 個々のいじめ防止サポーターの取組を把握し、新たな取組を提案するなど、サポーター活動の活性化を実施 ・ 中高生がいじめの防止について自ら考え、話し合っ紙芝居を創作し、小学生への読み聞かせる取組を実施 ・ スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置時間数増と県立学校への教育相談員の配置 ・ 児童生徒に関わるインターネット上の不適切な書き込みを検索するネットパトロールの実施 ・ SNSなどでの閉ざされたやりとりにおいて、不適切な書き込みを発見した場合に、その内容を投稿できるアプリ「ネットみえ〜」の運用 ・ 不登校児童生徒一人ひとりの状況に応じた訪問型支援の推進 ・ 公立学校における支援事例のデータベース化、2中学校区をモデルに児童生徒の心の回復力を育む「レジリエンス教育」の実践プログラム作成 ・ 新たに2市町が、子どもの貧困対策計画を策定（計11市町） ・ ひとり親家庭の子ども学習支援を実施する市町への補助や生活困窮家庭の子ども学習支援を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ いじめ防止対策推進法や国のガイドラインに則った対応の徹底 ・ いじめ防止に向けた児童生徒の主体的な取組の推進と社会総がかりでのいじめ防止 ・ ネット上での人権侵害や誹謗中傷等から児童生徒を守る取組の推進、ネット上でのいじめ防止 ・ 小中学校段階の不登校児童生徒への支援の充実 ・ 高校段階で不登校等の状況にある子どもたちの学習支援や自立支援等ができる体制づくり ・ 市町における「子どもの貧困対策計画」策定の後押しと、子どもの貧困対策に関わるさまざまな団体との連携強化

教育施策	主な成果	残された課題
7 地域との協働と信頼される学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクール導入校の増加による地域と連携した学校運営の取組の進展 ・学習指導要領で求められる資質・能力を身につけられるよう、主体的・対話的で深い学びの授業改善につながる研修やICT活動指導力・英語指導力の向上に向けた研修等の実施 ・地域や産業界等と連携し、学校の特色化・魅力化に取り組んでいる高校の増加 ・これからの時代に求められる学びを提供するため、三重県教育改革推進会議での審議を経て、新たな「県立高等学校活性化計画」を策定 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクールおよび地域学校協力活動の推進 ・人口減少やグローバル化、超スマート社会など、教育を取り巻く環境が変化する中、これからの時代に求められる学びを提供できる、地域における県立高校の学びと配置のあり方の検討 ・教職を担うにあたり必要なコンプライアンス等の素養や児童生徒理解、授業力等の専門性を身につけ、教育課題への対応力を高めることのできる研修の実施 ・教職員の業務の負担軽減を図るなど働き方改革の推進
8 地域の未来と若者の活躍に向けた高等教育機関の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・奨学金返還助成制度において、32名を支援対象者として認定 ・「おしごと広場みえ」における総合的な就労支援の提供、就職支援協定締結大学を通じた県内企業の情報発信 ・「『みえ』のインターンシップ情報サイト」を運営し、県内企業のインターンシップを促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・若者の県内定着を図るため、奨学金返還助成制度の継続実施 ・関係機関との連携による、就職活動のオンライン化をふまえた総合的な就労支援サービスの提供、インターンシップ、U・Iターン就職の促進、県内企業の魅力発信
9 地域の未来を創る多様な人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・「三重県医師確保計画」に基づく、地域医療支援センターにおける医師のキャリア形成支援や医師不足地域への派遣調整、医師修学資金貸与制度の運用 ・三重県看護職員確保対策検討会での議論をふまえた人材確保対策、定着促進対策、資質向上対策、助産師確保対策の4本柱の取組実施 ・医学生を対象にした、へき地医療の魅力伝えるオンライン研修会の実施、高校生を対象とした「みえ地域医療オンラインセミナー」の開催 ・介護未経験者を対象とした研修の実施や、外国人材を対象とした奨学金の支給に係る事業所への支援 ・みえ森林・林業アカデミーによる林業人材育成、みえ森林教育ステーションの認定、森林教育をテーマにした幼稚園・保育園教員の交流会の開催、小学生向けの森林教育のプログラムの作成着手 	<ul style="list-style-type: none"> ・医師数の不足や地域偏在等を解消のための医師の確保 ・看護職員修学資金貸与制度の運用や三重県ナースセンターへの登録促進などによる、看護師の確保・定着 ・介護人材の確保に向けた新規参入や定着促進 ・子どもから大人まで一貫した森林教育の実施

教育施策	主な成果	残された課題
<p>10 あらゆる世代の誰もがいつでも学び挑戦し、活躍できる社会づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「女性の活躍推進三重県会議」の取組として、アドバイザー派遣による一般事業主行動計画の策定支援、企業の女性活躍の取組を顕彰する「チェンジ・デザイン・アワード」の実施、優良事例の周知 ・外国人住民を含め、中学校で十分な教育を受けられなかった方への教育機会確保の検討を進めるため、津市と四日市市の2会場で、夜間体験教室「まなみえ」を実施 ・社会教育を推進するための学校と地域を結ぶコーディネーターの養成及びフォローアップ講座の実施 ・生涯現役促進地域連携協議会において、高齢者の心身の状況等に応じた多様な就労機会の創出、企業における高齢者の積極的な雇用促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・性別による固定的役割分担意識の解消など男女共同参画意識の一層の浸透やあらゆる分野における女性の参画・拡大 ・公立夜間中学のあり方についての検討 ・ライフステージ等に応じた多様な学習ニーズを把握し、魅力的な学びの場や学んだ成果を発表できる場の提供など、生涯を通じて学ぶことができる環境づくり